

Press Release

日本ソーシャルフットボール協会

2018年5月20日



スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター



JSFA
Japan Social Football Association

【精神障がい者サッカー】

昔、ひきこもり。今、日本代表。～殻を破って世界へと挑む、精神障がい者フットサル日本代表～

フランス・アルゼンチン・スペインを下し3連勝するも、準々決勝でハンガリーに敗れベスト8。優勝は、開催国イタリア。

精神障がい者サッカー（フットサル）のワールドカップ、DreamWorldCup2018がイタリア・ローマで開催。2連覇を目指した日本は、1STラウンドで他国を圧倒し3連勝するも、準々決勝で敗退し大会を終える。開催国イタリアが、前回大会の雪辱を果たして優勝を飾る。

■公式試合結果

【1STラウンド/第1戦】 日本 17 (9) - (2) 2 フランス

スターティングメンバー：小林(12)、竹内(11)、八木(10Cap)、北澤(5)、川岸

(得点/前半) 日本：八木 (10)、八木 (10) ②、八木 (10) ③、黒沼 (7)、松寄 (3)、中島 (8)、竹田 (4)、竹内 (11)、竹内 (11) ② / フランス：(10)・(16)

(得点/後半) 日本：中島 (8) ②、黒沼 (7) ②、中島 (8) ③、加村 (9)、竹内 (11) ③、小林崇 (12)、小林崇 (12) ②、小林耕 (6) / フランス：なし

【1STラウンド/第2戦】 日本 8 (5) - (0) 0 アルゼンチン

スターティングメンバー：竹内(11)、八木(10Cap)、中島(8)、北澤(5)、川岸

(得点/前半) 日本：八木(10)、黒沼(7)、小林耕(6)、八木(10)②、竹内(11) / アルゼンチン：なし

(得点/後半) 日本：小林崇(12)、竹内(11)、北澤(5) / アルゼンチン：なし

【1STラウンド/第3戦】 日本 8 (5) - (2) 3 スペイン

スターティングメンバー：川岸 (1)・北澤 (5)・中島 (8)・八木 (10)・竹内 (11)

(得点/前半) 日本：松寄 (3)、黒沼 (7)、中島 (8) ③ / スペイン：(11)・(11)②

(得点/後半) 日本：黒沼②・加村①・竹田 / スペイン：(11)③

【準々決勝】 日本 2 (0) - (1) 3 ハンガリー

(スターティングメンバー) 川岸 (1)・北澤 (5)・中島 (8)・八木 (10)・竹内 (11)

(得点/前半) 日本：なし / ハンガリー：(8)

(得点/後半) 日本：黒沼 (7)・小林崇 (12) / (10)・(23)



→写真画像は、左記 URL よりダウンロードできます。ご自由に掲載ください。 <https://goo.gl/qQzoz1>

■大会ハイライト

大会初戦となったフランス戦。緊張からか序盤は動きが硬く、スムーズな動き出しが見られない。それでも個人技やシンプルなパス交換から得点を重ねる。一方で簡単なミスから失点をするシーンも。後半には徐々に日

本らしいパス回しや動き出しを見せて、各選手が得点を決める展開となり、初戦を大差で勝利し次戦につながる。

第2戦となったアルゼンチン戦は、序盤からボールと選手が動き、狙いのある攻撃を続け5点を先制。その戦いは、会場に来た観客や他チームを魅了し歓声が多く上がった。アルゼンチンの個人技に対しても、選手一丸となり集中した守備を見せ無失点に。3点を重ねて8対0とし2連勝を重ねた。

1日空けての試合となったスペイン戦。序盤は相手の勢いとフィジカルの強さに押されて、ミスも重なり痛い2失点。しかし、ピッチの選手、ベンチともに慌てず、日本らしいパス回しを取り戻す。そこから、冷静に松崎(No.3)が1点目、失点に絡んだ黒沼(No.7)が2点目を奪い返し、次第にチームは落ち着き逆転する。前半を4対2で折り返す。

落ち着きを取り戻した日本は、後半の早い時間帯に3点を加える。中島(No.8)が狂巻のハットトリックを達成。加村(No.9)が得意の左足でフリーキックを直接叩き込む。試合終盤、竹田(No.4)が8点目を加えた後、相手エース(No.11)に見事なターンから1点を返され、8対3で試合を終える。

フランス・アルゼンチン・スペインに3連勝し、グループBを首位通過した日本は、グループA4位のハンガリーと対戦。

ハンガリーの勢いのあるプレッシングと厳しい当たりにボールが取まらない前半。丁寧につなぐもゴール前では好機を作れず。後半2分、相手シュートをゴレイロの川岸(No.1)がブロックするも、こぼれ球を角度のないところから決められ先制される。徐々にペースを取り戻し、中島(No.8)らが好機をつくるもシュートは枠を捉えられず。ハンガリーの立て続けの速い攻撃を川岸(No.1)が好セーブでしのぎ切り、前半は0対1で終える。後半、日本は慌てずに相手のマークを剥がしながらボールを動かす。展開の早い一進一退の攻防の中、松崎のコーナーキックから黒沼(No.7)が合わせて同点ゴール。勢いづく日本は、ボールと人が動き、いくつものシュートチャンスをつくる。そうした中、小林崇(No.12)が逆転ゴールを奪う。なおも押し込むが、徐々に球際で競り負けるシーンが多くなり、迎えた中盤、ゴール前でファウルを与え、直接フリーキックを与え同点とされる。お互いに1点を狙う終盤、ハンガリーの際どいトラップから前を向かれ逆転ゴールを奪われる。日本は、北澤(No.5)を投入しパワープレイで同点を狙う。試合終了のホイッスル直前に小林耕(No.6)が放ったシュートはゴールに吸い込まれる。同点に喜ぶもこのゴールは認められず。日本は激しく抗議するも判定は覆らず試合終了。連覇を狙った日本代表、準々決勝で敗退となる。

■奥田巨監督

-ハンガリー戦を終えて

勝てるチャンスがあった試合。ゴール前の迫力やタイミングが足りず、ゴールにつながる形が多くはつくれなかった。それが負けた理由。相手のキープレイヤーとの駆け引きでうまくいかず残念な結果になったと思う。

(判定には納得できない部分があったが)しっかりと言葉にしたが判定は覆らなかった。それは大会側の判断としてしょうがない。そうした判定だけで試合結果が左右されてしまう状況になったことが、チームの課題であったし、監督の自分に責任がある。

-大会全体を通じて

チームの状態は良かったし、あと数試合でさらに良くなったと思う。完全アウェイとなる決勝での経験もさせたかった。選手全員が努力した結果だと思うし、チームの雰囲気も良かったと思う。

大会を通じて楽しめていたし、もっと真剣にやりたいと思う選手がたくさんいると思う。そうした思いを受け止めてチャレンジできる環境がこれからも必要。彼らに続く選手が出てくるように継続的な活動を通じて、今回代表に選ばれた選手とともに競技の発展に協力したい。

■八木キャプテン

-ハンガリー戦・大会を通じて

ハンガリー戦は勝てた試合だった。フィジカルの部分で負けていたが、チャンスもあったが決め切れなかった。

判定については仕方がない。決めていけるところを決めていれば良かったし、そうすれば結果は変わった。

選手は今やれることは全力でできた。結果は運や決定不足。決められるように練習を積みみたい。

ソーシャルフットボールで自分は成長できたし、仲間に出会えた。自分たちの体験を、同じ境遇の日本の仲間達にも伝えて還元していきたい。

■大会結果

優勝：イタリア

準優勝：チリ

第3位：ペルー

[参加国] イタリア・日本・アルゼンチン・チリ・ペルー・フランス・ウクライナ・スペイン・ハンガリー

■DreamWorldCup2018

2018年5月にイタリア/ローマで開催される第2回ソーシャルフットボール国際大会へ日本選手団を派遣します。なお、第2回大会は精神保健の先進国であるイタリアで開催されます。第2回大会より、多くの人に夢を与えられる大会を目指し、関係各国議論の末、世界大会の呼称を「Dream World Cup2018」に変更しました。参加国は直前にセネガルが不参加となり、9ヶ国となりました。

イタリア・日本・アルゼンチン・チリ・ペルー・フランス・ウクライナ・スペイン・ハンガリー

【大会日程】

5月13日(日) 第1ラウンド

5月14日(月) 第1ラウンド

5月15日(火) 第1ラウンド/準々決勝

5月16日(水) 準決勝/決勝戦

【会場】 Palazzetto dello Sport

【大会公式WEB】 <https://www.dreamworldcup.net/>

■ソーシャルフットボール日本代表選手

No	選手名	ポジション	所属
1	川岸 浩二 Kouji Kawagishi	GOLEIRO	リベルダーズ北海道(北海道)
2	原田 洋行 Hiroyuki Hrada	GOLEIRO	Espacio(千葉県)
3	松崎 俊太郎 Syuntaro Matsuzaki	FIXO	Espacio(千葉県)
4	竹田 智哉 Tomoya Takeda	PIVO	Espacio(千葉県)
5	北澤 誠司 Seiji Kitazawa	FIXO	おこしやす京都(京都府)
6	小林 耕平 Kouhei Kobayashi	PIVO	YARIMASSE大阪(大阪府)
7	黒沼 直樹 Naoki Kuronuma	ALA	Espacio(千葉県)
8	中島 大輔 Daisuke Nakajima	ALA	エスブランドみやぎ(宮城県)
9	加村 有弘 Arihiro Kamura	ALA	YARIMASSE大阪(大阪府)
10 Cap	八木 英充 Hidemitsu Yagi	PIVO	長崎ワイルドアミーゴズ(長崎県)
11	竹内 晋平 Shinpei Takeuchi	ALA	リベルダーズ北海道(北海道)
12	小林 崇太郎 Sotarou Kobayashi	ALA	エストレージャあいち(愛知県)

■ソーシャルフットボール日本代表スタッフ

役職	氏名	所属
統括マネージャー	真庭 大典	JSFA 競技委員長
監督	奥田 亘	シュライカー大阪
コーチ	鈴木 和師	桐蔭横浜大学
コーチ	辻 紫苑	桐蔭横浜大学

コーチ	宮竹 晴紀	ジャグランカ ※国内合宿のみ
トレーナー	岩根 達郎	おこしやす京都
トレーナー	大角 浩平	Espacio
マネージャー	大島 誠	大阪ソーシャルフットボール協会



■ソーシャルフットボールとは。

チームワークとコミュニケーションが求められる「フットボール」。最近では精神疾患・精神障がいのある方の回復や社会参加に効果があるとされ、日本では「ソーシャルフットボール」というカテゴリとして、精神科デイケアや病院のプログラム、各地域のクラブチームの活動として取り組まれ、全国 160 チーム・2000 人以上が活動しています。

ソーシャルフットボール日本代表の活躍は、精神障がいへの理解を広げるとともに、同じ境遇に置かれる多くの仲間にも夢や希望を与え、彼らの社会復帰や、環境改善の手助けになると考えます。

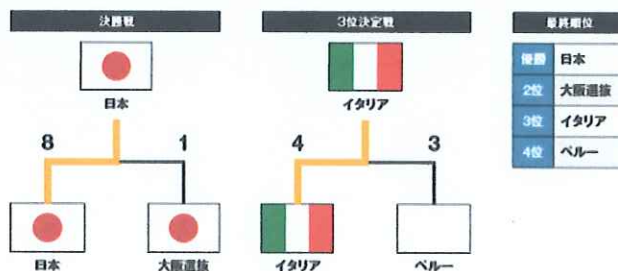
フットボールを通じて「互いを大切にし、共に支え合う共生社会の実現」を目指す、彼らの大きな挑戦への多くの皆様のご賛同とご参画を、よろしくお願い致します。

■第1回国際大会戦績（2016年2月/J-Green 堺（大阪府堺市））とこれまでの経緯

2013年10月に、日本で第1回精神障がい者スポーツ国際シンポジウム・会議が開催され、参加国を対象に調査を行いました。その調査報告によると、すべての国で実施されていたスポーツはサッカー（フットボール）でした（田中, 2013）。この結果を受け、精神障がい者スポーツの国際発展のモデルとしてサッカー（フットボール）を推奨し、競技規則に即した国際親善大会の開催に向け、各国がそれぞれ努力することで合意し、精神障がい者スポーツの国際化がスタートしました。

2016年2月24日（水）～29日（月）に第1回ソーシャルフットボール国際大会をJ-GREEN 堺（大阪府堺市）において開催。27日（土）と28日（日）に開催された国際フットサル競技大会では、日本、イタリア、ペルー、大阪選抜（特別枠）の4チームが出場しました。予選リーグの結果、決勝戦は日本対大阪選抜の対戦に決まり、日本が 8-1 で大阪選抜を下して初代チャンピオンに輝きました。

	ペルー □	大阪選抜 ■	イタリア ■	日本 ■	勝ち点	得失	順位
ペルー □	-	2-2	0-4	1-2	1	-5	4位
大阪選抜 ■	2-2	-	2-1	1-3	4	-1	2位
イタリア ■	4-0	1-2	-	0-3	3	0	3位
日本 ■	2-1	3-1	3-0	-	9	6	1位



NPO法人 日本ソーシャルフットボール協会(JSFA)

URL : jsfa-official.jp/

■ソーシャルフットボール日本代表チームマネージャー 真庭 大典 (まにわだいすけ)

TEL 070-5376-4124 / Mail info@jsfa-official.jp / Fax 03-6800-3071